

令和2年度第3回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

開催日時	令和3年2月19日（金）午後1時30分から午後3時まで
参加者	委員：別紙委員名簿のとおり 事務局：高齢者福祉課長、地域支援係長、担当主事（1名）
場所	Teams を活用した WEB 会議
内容	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料の確認</li> <li>・ 欠席者の確認</li> </ul> <p>2 議事</p> <p>(1) 令和2年度生活支援コーディネーター活動報告</p> <p>【資料1～4】を基に事務局から説明</p> <p>〈説明内容〉</p> <p>①瀬戸市全域（第1層）：やすらぎ会館にある老人福祉センターの利用者への聞き取りアンケート結果（資料2）から、外出の必要性、大切さ、機会を作る必要性を改めて認識。</p> <p>現在、Google MAP を活用した「地域支えあいMAP」を作成しており、今後地域の居場所が社会福祉協議会のHP内のGoogle MAPで閲覧が可能になる。</p> <p>コロナ禍で外出、買い物ができない高齢者向けの情報提供として、弁当業者に聞き取り、リーフレット（資料4）を作成している。3月に完成を予定しており、来年度以降も内容を変え、継続して作成していく予定。</p> <p>②ふたば（第2層）：サロンでの聞き取りの中で、コロナ禍で外出機会が少なく、繋がる場所が減ってきているという意見があったため、オンラインでのサロンの開催を提案。3月にオンラインの担い手養成講座等も検討しており、現在約15名の参加者の応募がある。</p> <p>③しなの（第2層）：尾張東流通センターや日進市で行っている移動支援、山口連区で行っている住民主体の移動支援等への情報収集を中心に行った。その中で、アピタ瀬戸店との協力体制を築くことができ、今後、より企業との連携が必要になると考えられる。</p> <p>また、居場所が今後継続的に開催できるよう支援内容を検討していく。</p> <p>④中央東（第2層）：孤立している方が地域との繋がりが持てるように、新たな社会資源になる居場所を発掘し、マッチングしていくことやコロナ禍でも居場所でも交流できるようなきっかけづくりなどの支援を検討していく。</p> <p>〈質疑応答〉</p> <p>[委員長]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者がコロナで益々外出機会が減少している状況が報告された。協議体の中でも繋がりを生み出し継続することは、まちづくりの観点からも非常に大きな試練。</li> </ul>

[瀬戸市シルバー人材センター]

- ・ コロナ禍にどう対処するか？全国的なシルバーの動きの中で「シルバーeat」を他市のシルバーで実施し始めたという事例があり、買い物支援のサービスの中で買い物代行、同行の支援、買い物ネットの支援を行っている。今後本市でも実施を検討するにあたり、生活支援コーディネーターと連携することでより実効性が上がるような展開が期待できるのではないかと。

[委員長]

- ・ 買い物支援等々について、情報共有しながらシルバー人材センターとコーディネーター・高齢者福祉課と連携していく

[瀬戸旭医師会]

- ・ オンラインのサロンについて。高齢者でも、コンピューターの使い方を勉強されている方も多くおり、コンピューターを使うことで認知症予防にもなるため、積極的に起用すると良い。

[第2層生活支援コーディネーター]

- ・ オンラインのサロンは市内全域に声掛けをしており、80代の方も参加予定。80代の方でTwitterやLineを使う方もおり、今後も機会を広げて開催していきたい。

[委員長]

- ・ 大学コンソーシアム瀬戸の活動報告会で、名古屋学院大学の学生グループ「リンクス」も瀬戸キャンパスを舞台にして高齢者向けのパソコン講座等を開いてきた。私達が思っている以上にオンラインの環境やコンピューターを活用する方が増えていくことが期待される。  
市や大学、市民団体等がオンラインやスマートフォンで横に繋がる環境整備が必要。

[事務局]

- ・ 市民がどのような媒体から情報を得ているかというアンケートから、60代まではインターネットからの回答が多いが、70代以降になると紙や新聞の回答が多くなり、大きな差が見られた。今後、60代の方が70代になるころには、インターネットやスマートフォンの活用がスタンダードになると考えられる。

(2) 令和2年度瀬戸市施策の現状報告

【資料5～6】を基に、事務局から説明

〈説明内容〉

計画からの進捗状況と、今後の方向性について説明。(①～③)

- ①居場所：引き続き周知と事業の継続を行っていく。せとらカフェについては、今後担い手となるチームオレンジとの連携を強化して実施していく。

②移動：日常的な移動の必要性に加え、繋がりを活かす介護予防に繋がるような移動手段を検討している。

高齢者の移動支援推進事業について、今年度から愛知県受託事業として3年間移動支援の実証実験を行う予定。今年度計画が定まったため、生活支援コーディネーターからの課題であげられていた道泉、東明の2地区を中心に実証実験を行う。高齢者及び地域のニーズに基づいた個々の移動支援の在り方について来年度からも引き続き検討予定。

山口連区や社会福祉協議会については、移動販売車が来たり、住民の方達が車に乗って連れて行ったり、新しい形の手段が地域毎に動きつつある。

③担い手：元気高齢者サポーター養成講座については、緊急事態宣言の発令に伴い3月18日に延期。アクティブシニアの方と介護現場のマッチングを目的に実施予定。

チームオレンジについては、認知症サポーター養成講座のステップアップ研修が開催され、チームオレンジとして活動を担って頂く方の養成が行われ、認知症地域推進員が認知症の当事者の方と担い手の方とマッチングを順次行っている。

県が開発した、企業の方に向けて認知症サポーター養成講座より実践的な「ONEアクション研修」を推進しており、現在市内の薬局で開催。今後は事業者の担い手も推進していく。

#### 〈補足説明〉

[基幹型地域包括支援センター]

- ・ チームオレンジについて、認知症の方及び若年性認知症の方の社会参加、活躍の場を推進する観点から認知症サポーターとのマッチングを行っている。現在サポーターが16名登録しており、3件の案件を調整している。支援内容としては外出の付き添い、話し相手等。
- ・ 認知症サポーターと当事者の方が活躍できる場として、今後は福祉マルシェの出展を予定している。

#### 〈質疑応答〉

[瀬戸旭医師会]

- ・ 居場所の課題について、男性参加者が少ない、出席者が固定化されているとあるが、行政で新たな試みはあるか。

[事務局]

- ・ 居場所も介護予防事業に関しても男性の方の参加が課題。本市で開催する事業のアンケートで、募集のチラシに男性のイラストがあつたり、内容が麻雀やゲームだと参加しやすいという意見があつた。まずはPRの仕方から検討していきたい。

[瀬戸市民生委員児童委員協議会]

- ・ 居場所ではどのような活動をしているのか。

[事務局]

- ・ 地域で行っている居場所は多様なものがある。「サロン・まごころ」では1日のメニューとなっており、茶話会や体操、食事をしたりする。また、今年度から陶生病院の作業療法士が月2回派遣され、健康チェックを含めた活動を行っている。

[委員長]

- ・ イベント内容について、PR方法を考え心理的に働きかけることも大切。

〈補足説明〉

【資料6】を基に事務局から説明。

令和2年度までの活動の評価(上半期まで)

①居場所：(サロン・まごころ) 高齢者が集う場の開設数の実績値3は、市が設定しているサロン・まごころの件数。目標が設定された3年前は具体的な居場所が確保できていなかったが、この3年間で動きがあったので評価はAとなっている。今後も、順次身近な地域に集いの場は広げていく。

(せとらカフェ) 認知症カフェの登録事業者欄について、3年間の目標として11か所の設立としているが、令和2年度上半期の段階で達成された。認知症カフェについては場所が多ければ良いわけでは無く、まずは知り、利用していただくことにシフトしながら活用方法について検討していく。

②担い手：(介護予防・生活支援員養成講座) 研修終了者数について、158名の養成を目標としていたが、現時点は57名で達成度はD。コロナ対策の関係で養成講座が開設できなかったため、今後オンラインでの開設も検討していく。本事業は、高齢者の生きがいつくりの一端になるため、来年度の開催方法を検討していく。

〈質疑応答〉

[瀬戸市シルバー人材センター]

- ・ (介護予防・生活支援員養成講座について。シルバーでも、介護施設の担い手不足を補完するため、今後介護補助者の派遣事業の実施を検討している。新たな事業展開を検討しており、市と連携し実施をしていきたい。

[委員長]

- ・ 研修に関しては対面でしか出来ないことも多い。全て解決するのは難しいがオンラインやWEBを利用した様々な活動、研修も考えていかなければならない。イギリスではワクチン接種をボランティアが担っており、注射技術の研修もオンラインで行っている。対面が基本である高齢者福祉や介護事業に関

しても、どこまでオンラインで行えるか検討していくことが必要。

(3) 令和2年度政策提言の検討

【資料7】を基に、委員長から説明

提言書を基に、加筆・修正がある場合はご意見をいただきたい

〈説明内容〉

「提言事項」の「1 提言」について。令和2年度も「つながりを継続し、生み出す高齢者施策～住み慣れた地域で暮らし続けるために～」としており、問題意識は昨年度と同様。昨年、この提言を出したのはコロナウイルスが広まり始めた頃であり、議論はコロナ以前の話をしてきた。令和2年度はコロナ禍の中で協議体は議論を進めており、瀬戸市の高齢者施策を巡る状況は変化、打撃があった。しかし、コロナ以前、以降であろうと課題は変わらず、そのまま維持することとしている。

「2 説明」について。瀬戸市が抱えている問題は、地域活動の担い手、高齢者の移動手段、地域の居場所作りがあり、コロナ以前から瀬戸市の大きな課題である。そして現在、コロナ禍の影響で従来仕掛けがうまく機能できない状況に直面しており、ターゲットである高齢者の外出自粛を促進させている。

国から新しい生活様式を求められる中、対面で人と人が接触することについて、様々な面で気にしないといけなくなった。感染防止の為には必要ではあるが、一方で生活様式に合わせて活動を自粛、縮小させていくと本市の課題である地域の繋がりが益々後退してしまうことになる。まずは、課題を市民と行政が共有し合い、この問題に関して様々な取り組みをしている団体・個人が横に繋がっていくことが重要。そのために、行政が関与して市民が協力していく体制作りを行う必要がある。

来年度からとなる第8期高齢者福祉計画において、いかに地域の繋がりを継続するか、高齢者施策に取り組むことを提言することを申し添えて、私たちの協議体の提言としたい。

⇒ 提言書を委員長から高齢者福祉課課長へ渡す。

3 その他

事務局より来年度の会議についての案内。

〈説明内容〉

令和3年度第1回目は6月頃を予定。今年度同様、全3回の会議で政策提言まで行う。

令和3年度からは移動支援、特に外出機会の創出を目的に実証実験を始める。下半期からモデルテストを行う予定のため、本会議を通じて報告する。買い物支援についても色々な方々にご協力を頂きながら検討を進めていきたい。

	<p>ワクチン接種が始まるため、瀬戸市民、関係者の方々全ての皆様にご協力をお願いしたい。</p> <p>4 閉会</p>
--	--